

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 報徳会	代表者	中村裕可子	法人・ 事業所 の特徴	心の中に心を持ち、人に心を運び心を伝え、五つのわ（和、輪、我、笑、話）の調和を図る。
事業所名	黒石ケアサポート センター	管理者	中村公生		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	2人	0人	1人	0人	1人	0人	0人	4人	0人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・サービス評価実施前に評価のポイントを共通理解するための勉強会を行う。	・サービス自己評価時、評価ポイントの共有や「できている点、できていない点」を集計し事業部会議にて改善策に向けて協議の場を設けた。	コロナ禍に伴いできていない回答が多かった。今までと異なる媒体を使う方法を試すなど良い機会と捉え職員で共有し前向きに取り組んでほしい。	自己評価には、職員一人一人の職種別の捉え方があるが、評価を職員全体で行い、話し合うことでチームケア、小規模多機能型居宅介護とは何かの確認となるよう協議の場を設ける。
B. 事業所のしつらえ・環境	・小規模多機能、グループホーム利用者の所在確認手順を日々実施できるようにする。 ・グループホームと共同で四季を取り入れた昔懐かしの物品をふれあい支援室へ展示し交流と回想できる場を設ける。	・小規模、グループホーム利用者の所在確認のため、各担当者が定期的に連絡を取り合い互いに意識した行動をしている。 ・支援室を昔懐かしの回想できる場を設け、年4回季節ごとに物品を変更し四季を感じながら、日々で利用者が懐かしみ、語りあう空間として活用されている。	参加者から、見たことがないとの意見があった。	コロナ禍の中、外出や地域交流が制限される状況にある。施設内での環境設定に力を入れ、ふれあい支援室や小規模のレイアウトに四季を感じ、くつろぎ語り合える空間作りをしていく。又、再度本人がどのように暮らしたいのか、本人の持てる力の発揮となるよう、施設全体での環境、サービスメニューを活かし、生活上でのリハビリやレクリエーション、趣味等、活動範囲を広げ生活の継続性へ繋げていく。
C. 事業所と地域のかかわり	・地域医療連携室や居宅支援事業所を月1回以上訪問し利用状況の報告をする。困りごとを相談しやすい顔が見える関係性を構築する。	・定期的な事業所周りにて利用状況の周知や顔が見える関係性作りや運営推進会議にて、近所の高齢者に関する小規模サービスの説明や事業所のチラシを渡し地域の方への周知に繋げた。		

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模多機能を知ってもらうきっかけづくりの一つとして黒石ケアサポートセンターの強みをPRできるチラシを作成し、認知症についての相談や認知症が初期段階のうちにサービス利用に繋げたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模を知っていただくためにチラシの作成や相談時は、小規模の提供できるサービスについて他居宅事業所や家族様へ伝えていく。初期段階や地域で困っている方へのアプローチが今後の課題である。 	<p>小規模利用者の中に高齢者世帯や独居世帯が多くなっている。施設の職員だけでは、解決は見いだせないと思う。民生委員や地域資源(例えばコンビニ)等活用方法の検討も必要ではないか。</p>	<p>今後必要とされる本人、家族への一体的ケアに向けて、他の家族、地域、専門職、役割と出会うことができる場所作りとして、認知症カフェとの連動性や地域で集える環境等を検討することで地域との関係性の支援へ繋げる。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・取組み内容の経過や結果を見てわかるもので報告し第三者の意見を取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議を開催にて、利用者状況や活動報告、サービス内容などについての話し合いから意見、助言をいただきサービスへ反映している。 		
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関センサーの設置を検討する。 ・法人全体で水災害のガイドラインを今年度作成予定である。 ・消防、災害時の設備関係が職員一人ひとりが日常に操作できるまでの訓練を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム、小規模共に玄関センサーの設置をしている。 ・水災害ガイドラインを作成している。 ・消防、災害時設備関係について職員全員が把握し対応できるよう訓練時参加職員を選出をしている。防災計画の詳細について、具体的実施内容を今後運営推進会議にて伝え共有していく。 	<p>防災計画に関することガイドラインは見たことがない。法人は、災害時等どういう役割があるのか。(事業所のガイドラインを確認して頂く) 福祉避難所として食料の備蓄や利用できることを地域に更に周知することが必要である。</p>	<p>感染症、災害への対応力強化に向けてガイドラインの整備、研修や訓練の実施内容について運営推進会議の場で具体的な進捗状況を伝える。</p>